

事業計画書

現在の地域課題に対する本事業での実施内容	ゼロカーボンを意識して生活するようになった昨今ですが、地球温暖化の原因でもある温室効果ガスは、二酸化炭素だけでなく、メタン、N₂O（亜酸化窒素）も含まれます。その中のN₂Oは大気中で長く滞留し、地表から放出された熱を吸収する能力も高いことから、CO₂の約300倍の強い温室効果を有するといわれており、二酸化炭素とともに地球温暖化の観点から無視できないといわれています。 N₂O発生の人的起因として、農業活動が原因の一つとされ、アンモニアをもとにつくられる化学肥料は、アンモニアを1000気圧という超高压、500℃という高温のもとで窒素と水素の化学反応で工業的に作られ、莫大なエネルギーも費やし、さらに、化学肥料は、気化しやすく、水に溶けやすいので、大気汚染に加えて水質汚染の原因ともいわれています。 MINORIactでは、2022年春から「環境のこと」「食のこと」「農のこと」を考え、小さくともact(行動する)ことが大切と思い休耕地を借り大豆栽培を始めました。 なぜ大豆か。 ①80%を輸入に頼っている 日本では味噌、醤油、豆腐をはじめとした馴染みがある食品の原料でもあるのに関わらず、80%を輸入に頼っている現状を変えたい→フードマイレージ（食料の輸入が地球環境に与える負荷）が高い ②有機栽培には最適 大豆に限らずマメ科植物は、根粒菌と共生しているから窒素肥料がなくても、育つため。（根粒菌は大気中の窒素をアンモニアに変換し（窒素固定）植物の生育に欠かせない窒素を大豆に供給する働きをする）環境にもやさしい。 ③日本の食文化を継承していく 【本事業に対して】 環境を考慮した有機農法を広めるには、消費を選択している消費者の意識改革が一番大切と思うので、農家を対象にした事業ではなく、一般消費者（特に未来ある子供たち）を対象にして意識醸成することに重点を置き、農業に関心がない子、農にふれることができない子、環境に関心がない子など、色々な人に体験を通して食・農・環境のつながりを知り、考えて、行動（生活に活かせる）できるように計画しています。
対象となる人・範囲	地域に住む子供、大人、環境に興味ある人、農に手軽にかかわりたい人 市内小学校、保育園
事業の効果、達成目標 （達成目標はできる限り数値で示すこと） 記載ポイント 事業の ・公益性	○米プロジェクト 2年目5家族20名程度の参加を目指す 米づくりを通して、化学肥料や農薬等一切使わない地球温暖化にもやさしい農業や農産物の大変さなどを知ってもらう ○大豆プロジェクト 10家族程度の参加を目指す。広く多くの人に食・農体験から、環境の事を知ってもらう為、市内小学校または保育園等で大豆を育て、味噌作り等の食農教育を実施し、環境への影響も知ってもらう ○こどもがつくるこども食堂「ミノリ食堂」 年に4回程度開催。 こどもたちに食事提供だけではなく、選ぶ力、作れる力を身につけ次世代につなぐ 大学生・高校生・中学生・小学生対象 ○「ミノリキッチン」 親子幼児クラスにて、無農薬・無化学肥料の野菜収穫体験＋料理教室を通して、フードマイレージ問題や日本の食文化（和食）中心にすることが自給率をあげる事にも繋がることなど知ってもらう 5組×4回＝20組の参加者をめざす

詳細 (活動内容・方法・スケジュール等をできるだけ詳しく、別添資料のある場合はその旨を記載する) 記載ポイント 事業の ・独自性 ・発展性 ・実現可能性 ・団体の自立促進	【食と農から持続可能な環境を考える】 おいしいお話し会と勉強会を(遠い講師は)オンラインでつなぎ、総錬センター食育室等で定期開催(勉強会やお話し会を通して、環境を考える消費者をつなぐ) ○「森の渇きと食の安心安全」来島由美さん ○「オーガニック宣言とは」CPPジャパンさん ○「まちの食農教育」樋口明日香さん ○「食を中心に置いた保育園」古川理紗さん ○「麹は世界を救う。循環型農業」山元正博さんなど候補 【農から考える】 ○不耕起で大豆プロジェクト 昨年のカメムシ被害を考慮し、虫除けのためハーブを同じ畑で栽培しコンパニオンプランツで大豆育てをする 10家族程度募集 市内小中学校・保育園等で実施予定(R6は佐久平浅間小、岸野保育園で実施。R7は未定) 6月種蒔、7月除草、10月収穫、2月味噌づくり等 ○米プロジェクト 5月田植え 6月除草 9月稲刈り 10月脱穀 12月収穫祭「新米ご飯と・味噌汁作り」 【食から考える】 OMINORI食堂(こどもがつくる子ども食堂) 5月・8月・12月・3月 年4回程度開催 OMINORIキッチン 4月ジャガイモ植え 5月さつまいも植え・種蒔 7月じゃがいも収穫 10月 さつまいも収穫
重点テーマに該当する理由	【4 環境豊かなまちづくりのための二酸化炭素排出量の削減につながる取組】 ○地球温暖化の原因でもある温室効果ガスは、二酸化炭素だけでなく、メタン、N₂O(亜酸化窒素)も含まれます。その中のN₂OはCO₂の約300倍の強い温室効果を有するといわれています。その人的要因で、農業活動(慣行農法で使われる窒素肥料)が原因の一つとされています。小さいながらも農薬や化学肥料に頼らない農業を実践して、環境にやさしい農業(オーガニックエコ)な取り組みを佐久に広め、ゼロカーボン社会への意識を醸成する取組を為 ○フードマイレージ問題などから、環境問題を考え、地産地消・国産国消を日々の生活に取り入れることができるようにする取り組みを為
翌年度以降の取組	○休耕地を使った大豆・米栽培を増やし、そこに参加できる人数も増やすことで、オーガニックエコな取り組みを知ってもらい、意識醸成をはかる ○食を通じて農のこと環境の事を知ってもらえるよう、小学校や保育園等で食農教育+環境問題の出張授業を増やしていきたい